

地域の人たちが みんなでつくった 治田小学校

今日のお話は、3学期の始業式でお話した、「どうして治田の地域の方々は、学校のこと、みんなのことを、こんなに大事にしてくれるんだろう？」の続きです。6年生と過ごす最後のこの日に、校長先生は伝えなかったので、お話しします。

「校長先生に聞かせてカード」に、沢山の人が自分なりの考えを書いてくれて、「なるほどな」がいっぱいありました。全部紹介したいのだけれど、時間がないのでいくつか紹介しますね。



まず一つ目、「昔から伝わってきたものに、昔の人の気持ちがあるから。それを知ってほしいから」「治田の子どもと大人が協力し合って、活気ある治田を創るためだと思います」なるほど！ボランティアさんが言ってお



れたことと通じるね。校長先生は、この治田には宝が埋まっている感じがします。ある先生が、「治田や、治田小の宝さがしをしてみたい」と言っておられました。すごい面白そう！地域の方にも教わりながら、私も治田や治田小の宝を探してみたい。

二つ目、「僕たちが成長するのが励みになっているから」「私達が頑張っているのを見ると、地域の方が元気をもらえるから」うん、わかる。皆さんの頑張っている姿や笑顔は、地域の方やボランティアさんたちの大きなエネルギーになっているんだなあと、今年度の様々な行事を通して思いました。



三つ目は、校長先生、なるほどなと感心しちゃったのですが、「自分も小学生の時に地域の人に優しくしてもらったから、それを今の小学生にもしてあげたいと思ったから」ボランティアの皆さんも、子どもの頃に、地域の方に大事にもらったんだろうか。大事にもらうと、自分も誰かを大事にしたいなあとと思うもんな。なるほどと凄く思ったので、校長先生は本当にそうなのか、そうだったら凄いなあと、確かめてみたくなりました。

校長室には、学校の歴史をつづった本がいくつかあります。わたしは、その



本を開いて、むかしの出来事を読みました。治田小と地域の関わり、あったと思う？
ありました、たくさん。





この治田小学校は、今から150年ほど前、この地に、稲荷山小学校・桑原小学校の、2つの学校ができたときがスタートです。この2つの学校がやがて一つになって治田小学校になるのですが、その2つの学校はどうやってできたのか。

桑原小学校は、明善学校という名前で浄光庵から、明善学校の支校は地藏堂から、稲荷山小学校は極楽寺の本堂から



歴史が始まります。

国の方策として学校をつくることになった時、どちらの学校も、学校の場所や先生探し、それに掛かるお金の準備は、世話役となった人や地域の人たちに多くを任されたそうです。でも、とても沢山のお金や土地は勿論なかなか集まらず、進める立場の方はとてもとても苦勞したそうです。でも、地域の人たちは何度も何度も話し合い、苦勞に苦勞を重ねて寄付を集め、この2つの学校をつくり上げたんだそうです。治田小学校の歴史は、地域の人たちのこうした学校づくりから始まったのです。

今も、昔も、治田の地域の人々は、こうやっていつも治田小学校のことを大事にしてくれている。読みながら、そのことはよく分かったんですが、でも… いったい、どうしてなんだろう？ どうしてこんなに大事にしてくれるんだろう。 やっぱりそこがまだはつきりしない。この治田小学校の17代目の校長として、どうしてもそのわけを知りたいと思いました。

そこで、二つの学校が一つになった治田小学校がどうやって生まれたのか、それを読んでみました。すると、ああそうかと、そのわけがわかったような気がしたのです。これから、それを話しますから、みんなも、地域の人がこんなにこの学校を大事にしてくれるわけを 考えてみてください。

治田小学校ができたばかりの頃、最新の設備に子どもも先生達も、とっても喜んだそうです。なんと、その設計から地域の方たちは携わっておられました。たとえば、小さな子はすぐに庭に出てたくさん遊べるように、南の校舎に低学年教室をつくったり、



図書館や職員室は、全学年の子どもがすぐに尋ねられるように、校舎の中心に置いたりしたそうです。また、生き物と出会ったり、体いっぱい使って存分に遊べたりするように、治田池や治田山も、おうちの方たちと当時の子ども達が力を合わせ、手作りで作られました。

そして何より、学校中にあるたくさんの美しい花や美味しい実のなる木は、“きれいだけれど殺風景”な学校ではかわいそうだと、おうちの方や地域の方が、自分達が学び育った桑原小学校、稲荷山小学校からすべて運んで、植えたものなのだそうです。



これを読みながら、わたしは「これだ」と思いました。それは、この治田小学校は、地域の人たちが、みんなで作った学校だということです。それがわかったとき、わたしは、治田の人たちがこの学校を大事にしてくれるわけがわかったと思いました。

地域の人たちが協力して作った学校。その学校は、地域の人たちにとっては、どんなに時代が過ぎても、自分たちが作った「自分たちの学校」だということではないでしょうか。 そう思ったのです。

自分たちの学校だと思っから、
「自分が育った治田の、本物の良さを伝えたい」と思う。

自分たちの学校だと思っから、
「みんなの笑顔を見ると、嬉しくなる」

自分たちの学校だと思っから、
「昔、地域の人に良くしてもらったように、自分もしよう」と思う。

自分たちの学校だと思っから、
学校のいろんな活動に協力しようと思っ。



と、わたしは思ったのですが…。

そこで、みなさんに聞きます。

こんな地域のみなさんに、わたしたちは、感謝の気持ちを伝えているでしょうか？

感謝の気持ちを伝えるとしたら、どんなふうに伝えたらいいんでしょう？

中学生になる6年生も含めて、みなさんに、ぜひ、それを考えてほしい、そして、実践してほしいと思います。

3月の様子(学年入れ替わりで紹介していきます)

【6年】卒業式 ～治田小を巣立つ日～

6年間の小学校生活が、あと1日で終わります。長いようで、短かった6年間だったのかもしれない。

この日を迎えるまでに、たくさんの人と出会い、たくさんの友達と関わり、大きく、たくましく成長してくれた子どもたち。この6年間の中で、楽しかったことや辛かったこと、いろんな出来事があったことでしょう。そんな思い出も心に秘めつつ、学校、学年一丸となって作り上げていく最後の大きな行事である卒業式。入退場での歩く姿、礼の仕方、立ち姿、座っている時の後ろ姿、証書を受け取る時の声。そのすべてに今までの感謝の気持ちを込めようと練習に励んできた子どもたち。いよいよ明日本番を迎えるのみとなりました。立派に成長したお子さんの姿を楽しみにしててください。



改めまして保護者の皆様、今まで子どもたちを支えていただき、また学校へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。至らない点も多々あったと思いますが、保護者の皆様の温かいご支援とご協力で、ここまですることができました。本当にありがとうございました。

明日は子どもたちの晴れやかな姿を見守りながら、新しい世界へと送り出したいと思えます。

そして、中学でのさらなる活躍を期待しています。



【児童会】アルミ缶回収

福祉委員会で回収したアルミ缶を、(株)平林軽金属工業所さんに引き取っていただきました。今年度の合計が126kg、金額にして20,160円になりました。令和6年度の福祉委員会役員と相談し、学校生活で使うボールを購入することにしました。ご協力ありがとうございました。

治田小学校 殿		
計 量 書		
回数	単価	日付
会社名 区分 郵便番号	アルミ缶	126kg
品名		
品名		
品名		
品名		
品名		
品名		
品名		
備考	①1600	合計 20,160-

長野県千曲市大字寂碓 46 番地 2
株式会社 平林軽金属工業所
TEL 026-272-0477
FAX 026-272-1492

【1年】4年2組との交流～ポッチャに挑戦！

3月13日（木）に、4年2組との交流でポッチャに挑戦した1年生。児童センター等で体験したことがある子もいましたが、多くの子が初めてのポッチャに興味津々、交流の日を楽しみにしていました。

交流当日は、4年生が1年生に分かりやすくルールを説明してくれました。また、4年生は、各チームの1年生がボールをたくさん投げられるように考えながらゲームを進めてくれたり、実況や応援をしながら盛り上げてくれたりと、4年生の優しさ、そしてチームワークで時間いっぱい初めてのポッチャを楽しむことができました。



すてきなお兄さんお姉さんに囲まれて、1年生はうれしいです。「おもしろかった！」「ボールを近づけるのが難しかったけど、楽しかった」「負けてくやしい！」「またやりたい！」と、笑顔で話していました。



R7年度にむけて お知らせ・お願い

1 来年度の教室配置について（詳細は6ページ目の図を参照ください）

- 新2年生が単級（1クラス）になるにあたり、現在の図工室を「2年生の教室」とし、現2-1の教室を「2年生学習室」とします。
- 現2-2の教室が、特別支援学級「6組」となります。
- 現7組の教室が、「図工室」と「児童センター分室」となります。

2 日課について

- 集会から5時間目の移動時間の確保の為、昼休みを5分短くし、清掃・学級の時間（集会）の開始を5分早めます。

3 学校集金の変更について

- 別紙の通りです。

4 タブレットの持ち帰り促進に向けて

- 全国的に、タブレットでの家庭学習の推進、学級閉鎖時等の柔軟な緊急対応等の必要性から、タブレットの持ち帰りが進められています。本校も、R7年度より、事前指導を行った後、全学年持ち帰りを進めます。ただ、とても「重い」ものですので、特に低学年の日々の持ち帰り物品について、精査していきます。

春休み中の 自転車の安全運転についての お願い

子どもたちにとって、心が「ふわふわ」する春休み。

暖かくもなり、外での活動も増えていくかと思えます。

それに伴って、自転車に乗る機会も増えると思うのですが、是非、下記の点をご家族で確認戴けたらと思います。

- 信号のある交差点は、自転車を押して渡る。二段階横断をする。
- 一旦停止線は必ず停まり、左右の確認をする。（大きな道に出る際は特に）
- 道に広がって運転しない。（一列走行）
- 坂道はブレーキをかけながらゆっくり運転する。

自転車は「車」という意識をしっかりとって運転するよう、お声がけください。